

(1)は上端部が欠損している。「二月」の上に文字があり、「年」あるいは「十」であろうと推測する。「便」の意味については不明である。(2)は下端が欠損し、側面は割れている。「百束」は量として非常に多い。(3)は上部に面取りをし、両側面は割られている。下半部は二次的に削られている。「十」の上の文字は「申」あるいは「中」であろうかと思われる。(4)は両側面が二次的に削られ、下半部は欠損しているため、木簡の原形は不明である。(5)は横材の木簡である。針などの先端の鋭いもので、幅約2cmの刻界を木目と直交する方向に刻む。木目から見て上・左右側面を二次的に削り、下端は欠損している。

伴出した物差は、間隔にばらつきがあるが、両面に約五分(一・五cm)間隔で目盛りを墨書する。

墨痕が濃く遺存している木簡の多くは、細分され文章の全体が把握できない。意図的に木簡を細分して廃棄したと推測できる。

なお木簡の釈読は、奈良国立文化財研究所の館野和己氏・渡辺晃宏氏・山下信一郎氏・吉川聰氏による。

## 9 関係文献

荒井 隆『市内遺跡調査概報X』(高岡市埋蔵文化財調査概報四二  
一〇〇〇年)  
(荒井 隆・岡田一広)

## 富山・手洗野赤浦遺跡

1 所在地	富山県高�冈市国吉
2 調査期間	一九九九年(平11)五月～一〇月
3 発掘機関	(財)富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所
4 調査担当者	越前慎子・深堀 茜・町田賢一
5 遺跡の種類	集落跡
6 遺跡の年代	一四世紀～一六世紀
7 遺跡及び木簡出土遺構の概要	

遺跡は富山県西部の高岡市にあり、西側を西山丘陵、東側を小矢部川に挟まれた氾濫平野に位置する。標高は約6mを測る。現況は

水田で、能越自動車道建設に先立ち調査を行なった。



調査の結果、上・下二面(いずれも中世)の文化層を検出した。主な遺構は、上層では桁行三間×梁間二間の掘立柱建物・上部が石組みで下部が曲物からなる井戸・竈のさく状遺構・土

坑がある。下層では区画溝に囲まれた掘立柱建物・道路の側溝と考

えられる南北に走る溝・石組み井戸・木組み井戸・曲物積み上げ井戸・自然流路などがある。また、区画溝の付近からは、ロクロ成形の中世土師器約三〇個がまとまって出土しており、祭祀性が窺える。この他に遺構の時期とは異なるが、安政年間の飛越地震によると考えられる北陸地方隨一の規模の噴砂を検出している。

今回報告する木簡は、下層の曲物積み上げ井戸SE一五八の掘形から出土している。SE一五八は、調査区のほぼ中央の区画溝に囲まれた部分にあり、掘立柱建物に伴う井戸と考えられる。直径約二・一mのほぼ円形の掘形をもち、その中央に曲物を三段に積み上げている。曲物枠は直徑五〇cm深さ約七〇cmを測る。遺物は木簡の他に、曲物内から珠洲甕の胴部破片・漆器が出土している。

## 8 木簡の釈文・内容

### (1) (符籙) 急々如律令

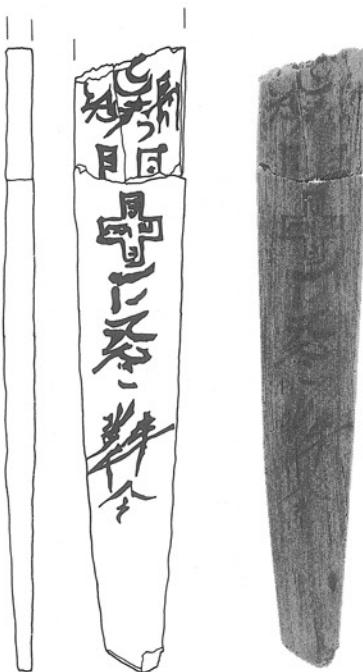
(165)×29×8 059

上部を欠損し、下端を刀子などで削り尖らせた呪符木簡である。

厚さはほぼ一定だが、下端は削り尖らせているため薄くなっている。呪句の判読は難しいが、惡靈擊退の意味を持つ「急々如律令」の他は、恐らく符籙の記号と考えられる。この呪符は、掘形ではあるが井戸内から出土していることから、井戸の祭祀に関わる用途が考えられる。

## 9 関係文献

(財)富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所『埋蔵文化財調査概要 平成二一年度』(11000年) (町田賢一)



(町田賢一)